

水稻・麦・大豆栽培情報 12月号

平成 28 年 12 月 1 日

J A 柳 川

南筑後普及指導センター

【小麦】

1 大豆後の遅播き対策

播種が12月中旬～下旬となる場合は、10a当たり播種量を7～8kg、12月下旬以降となる場合は9～10kgに増やします。基肥量は、大豆後の基準どおり施用してください。

2 雑草防除

スズメノテッポウなどの雑草が毎年多く発生するほ場では、播種直後の土壌処理剤の散布が効果的です。

その後発生する雑草に対しては、ハーモニー細粒剤F（雑草発生始期まで）やハーモニー75DF水和剤（スズメノテッポウ5葉期まで）を散布します。いずれも、散布時期が遅れると効果が低下しますので、適期を逃さずに散布することが重要です。

(1) 土壌処理剤

農薬名	使用時期	使用量(10a当たり)	使用上の注意
リベレーター フロアブル	播種後～ 麦3葉期	60～80ml (希釈水量100L)	・砕土、整地は丁寧に行い覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・土壌が湿りすぎていると効果むらや薬害の原因になることがある。
	〔雑草発生前～ イネ科1葉期〕		
リベレーター G(粒剤)	播種後～ 麦2葉期 〔雑草発生前～ イネ科1葉期〕	4～5kg	・まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。

※本剤は、麦出芽後も使用できますが、雑草の発生前からイネ科雑草1葉期までなので、時期を失ないようにしてください。

(2) 生育期処理剤

農薬名	使用時期	使用量(10a 当たり)	備考
ハーモニー細粒剤F	播種後～ 麦3葉期まで 〔雑草発生前～ 発生始期〕	4～5kg	ハーモニー細粒剤Fとハーモニー75DF水和剤
ハーモニー75DF 水和剤	麦1葉期～ 節間伸長前まで 〔スズメノテッポウ 5葉期まで〕	5～10g (希釈水量100L)	はいずれか一つしか使用できません。

※ハーモニー75DF水和剤は、雑草の発生を確認してから散布します。

※カズノコグサやタデに重点をおいた防除を実施する場合は、ハーモニー75DF水和剤を1月下旬～2月上旬に散布するのが効果的です。

3 排水対策

麦は湿害に弱いため、ほ場の排水性が麦の収量や品質に大きく影響を及ぼします。降雨後の水がほ場に停滞しないよう、排水溝の整備を十分に行ってください。

4 麦踏み・土入れ

麦踏みは、麦3葉期から2月下旬頃の莖立期までに3～5回程度実施します。麦踏みは、麦の分けつ促進と倒伏防止の効果がありますが、ほ場が湿っていると、土壌を締めつけ生育を抑制してしまふことがありますので、土壌が十分乾燥した状態で行ってください。

土入れは、無効分けつの抑制、雑草抑制や排水対策などの効果があります。1月上～中旬頃から3月上旬にかけて2～3回程度実施します。追肥後に行うと、肥効が安定する効果もあります。土入れも、なるべく土壌が乾燥した状態で行ってください。

なお、土入れは麦踏み前に実施し、麦踏み直後にはしないようにしよう。

農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベル（農薬基準）を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！